



～ 思い出をたくさん作りましょう!! ～

校長 長田 信彦

夏休みが終わり、涼しさの中に秋を感じる9月のはじめでした。あいにくの小雨模様。2日(水)より2泊3日の行程で、5年生は長野県の武石移動教室に出発しました。練馬文化センターからバスに乗り込み、関越高速道路・上信越高速道路で一路“車山高原”をめざしました。高原リフト乗り場に着くと、そこは霧の中。そして都会とはまるで違う気温の低さ。寒さ対策、防寒着として雨具を着用する子どもたち。いざ、4人乗りのリフトに乗って霧の中、車山の山頂をめざします。



リフトを2本乗り継ぎ、標高1925mの山頂へ着くと、そこは一面真っ白な霧の世界です。そして真っ白な球体“気象レーダー”が出迎えてくれました。「凄い!」「こんな景色初めてだ!!」子どもたちの歓声です。



記念写真を撮ってもらい、お昼ご飯の場所“車山肩”をめざしてハイキングに出発です。なんと、子どもたちのパワーのおかげでしょうか。霧が晴れてきたではありませんか。「あ!遠くの山並みも見え始めたよ!!」



「すっごく綺麗だね!」山々が子どもたちを遠くから観ているかのようでした。前日までの雨のため、滑る道を用意深く進んで行く子どもたち。1時間弱の道のりでした。

昼食場所に着くと、日光が燦々と降り注ぐ、とても気持ちのよい澄んだ空気に包まれていました。



ベルデ武石の方が届けて下さったお弁当を受け取り、元気に「いただきます。」

「山の中で食べるご飯で、なんて美味しいんだろう!」と、どの子どもたちの心の中にも、これからの3日間を思いっきり楽しもうという気持が高まっていったと思います。「ごちそうさま。」が済んでから、今度は約2時間の道のり。“八島が原湿原”を目的地に再びハイキングです。慣れてきたのか、気持ちが高揚しているのか、あちらこちらで尻餅をついてしまう子どもと大人。



でも大丈夫。「ケガはない?」「どこか撲ってない?」と言いながら手をさしのべる友達

の姿。私の眼には「みんなで共に力を合わせ、協力して進んでいる」ように映りました。霧が晴れるのも当たり前です。この子どもたちですから。ゴールでパチリ。みんな笑顔でいっぱいです。「ヤッホー」誰かが叫びました。「ヤッホー」山彦のように返ってきたのは、やはり友達の声でした。



- 1組ゴール-

- 2組ゴール-

ベルデ武石に着いたら“開校式”。続いて食事です。食事係が、全員の分を準備配膳していきます。ここでも、「あといくつ」「そのテーブルは揃った」と互いに声を掛け合っています。そして「いただきます。」



夕食の後は、子どもたちのお待ちかね“キャンプファイヤー”の始まりです。



ベルデの広い広い庭。この場所で、この炎を囲んで集えたことの奇跡。みんながみしめながら、ゲームに歌、そして踊り。なんとエネルギッシュな子どもたちでしょうか。ファイヤーストームの周りで、互いの心が一つになった素敵な夜空の集会でした。そしてそれは、翌朝の集いにも続いていきます。清々しい朝の光の中で.....。



全員集合の後.....



担任と子どもたちの豊かな時間。じゃれ合いです。それにしても、振り回される子どものなんと

もうれしそうなことか。スキンシップを通して感情を豊かに膨らませ育つ、子ども本来の姿です。

2日目の体験は二つ。畜産体験と黒曜石の体験活動です。バイキング形式の朝ご飯をいただいた後、早速出発です。



まずは観光センターへ寄り、お土産を買いました。家族のことを思い浮かべ、「これはおばあちゃんに、こっちは弟に.....」といった具合に。それにしても、家族を思う時、どうしてこんなに優しい表情を見せてくれるのでしょうか。



1つめの体験、“鷹山ファミリー牧場”に到着です。牧場の方のお話を真剣に聞き、未知の

体験にチャレンジです。体験は3つ。“山羊の散歩”“乳牛の乳搾り”そして“牛のブラッシング”です。



山羊に散歩させられている子どもたちです。びくびくしながらも次第に慣れ、主導権は人間の方へと移っていきました。何とか山羊を動かそうと、ロープを引っ張る子ども。お尻を力一杯押してみる子ども。中には抱えて動かそうとする子どもも出てきました。動物との触れ合い、実に楽しそうです。

続いて、牛の乳搾りに挑戦です。自分の背丈よりも大きな牛。友達が牛のしっぽを持ち、おなかの下へ。乳搾りをしている子は、しっぽを持ってきている子に自分の身を守ってもらっているのです。なぜなら、牛は大量のオシッコや糞をする時、しっぽを持ち上げるのだそうです。ですから、しっぽが上がったと友達から合図があったら、すぐに牛の下から逃げないと、自分自身が………大変なことになってしまうのです。もう、共同作業の域を超え、友達を信じる作業と言ってもよいでしょう。幸いなことにとんでもないことになってしまった友達はいませんでした。よかった、よかった。みんな一緒にひと安心でした。



次は牛舎の中に入ります。30頭ぐらいいるでしょうか。お肉になる肉牛は、3~4才ぐらいで……。その業者のトラックの音を牛たちは覚えているので、トラックが近づいてくると悲しい声で泣くのだそう

です。子どもたちは牧場の方のこのお話に、シーンと静まりかえって聞き入っていました。この体験後に、このお肉を食べることなど気づいていないようです。そして牛のブラッシング。



グループに分かれ、大きな牛の体にブラシをかけていきます。ここでも先ほどの乳搾り同様、

一人はしっかりと牛のしっぽを持っています。近くの牛がしっぽを持ち上げました。その凄い量に子どもたちの驚きの眼が。「すごい!」「助かった!」の声。最後に、畜産体験修了証をいただきました。



食事の前に牧場の方から「いただきます」の言葉の意味を教えてもらい、いよいよバーベキューです。子どもたちの「いただきます」の声、いつもと違ったように聞こえました。でもその後は、食欲と大賑わいの焼き肉食堂でした。そういえば、この騒



動のなか、素敵な事件がありました。食後の後片付けの時です。友達がうっかりこぼしてしまったお味噌汁。するとどうでしょう。そばにいた子どもたちが、すぐにテーブル拭きや雑巾などを持ってきて後始末をしてくれました。しかも、当たり前のことを当たり前



にといい、ごく普通の姿でした。集団宿泊的行事2日目にして、子どもたちの心の大きな成長を見た瞬間でした。為すことによって学び、自ら友と共に成長していく素晴らしい子どもたち。これも本校のよき伝統と文化です。

つぎは、楽しみにしている子どもたちの多かった“黒曜石体験ミュージアム”です。黒く光り輝く黒曜石を一人一人が時間をかけ、ペンダントに仕上げていきます。ミュ



ージアムの指導員の先生に教えを請いながら、みんな違った形に仕上がっていきました。作品を首に提げて、なんだかとっても嬉しそうな子どもたちでした。きっと自分自身への“お土産”になったのでしよう。



ベルデ武石に戻り、それぞれの部屋で楽しいひとときを過ごしていました。友だちとの部屋遊び。私たち大人も、子どもの頃の宿泊の楽しい思い出は、結構この場面が多いのではないのでしょうか。開二小の子どもたちもきっと同じでしょう。



さて、夕食の後は“きもだめし”です。暗い暗いスキー庫に全員が集まり、男女それぞれがペアを組むためのくじを引きました。このときはまだ楽しそうな顔つきが見



られたのですが.....。

部屋の明かりを消して、いよいよ私の“こわい話”のはじまりです。話の中身は5年生の子どもたちに聞いて下さい。おどかし役はおとなです。半ベソをかいてスタートする子。スキップするかのように出発する子。ペアの相手にしがみつく子。それぞれでした。「キャー!」「ウギャー!!」という叫び声がスキー庫まで聞こえます。その声を聞いて、出発を待つ子どもたちの恐怖が増していきました。きっと男女が手を離すことなく体育館のゴールにたどりつけたことでしょう。.....「おやすみなさい。」



翌日3日目も気持ちのよい朝でした。朝会、山の空気をいっぱい吸って、ラジオ体操1・2・3。みんな元気です。



今日は“リンゴ狩り”と“群馬県立自然史博物館”の見学です。松井農園の山を登り、5種類のリンゴを自分でとって味わって行きました。この頃から「まだ返りたくない。」「もう



1泊したい。」という声を聞くことができました。なんだか嬉しい気持ちになりました。博物館はまるで社会科・理科見学です。迫力のある展示などを見ながら、多くの発見をする子どもたちでした。そして、一路学



校へ。全員無事に、元気に「ただいま、そして.....、「おかえりなさい。」